

## ALPINA B6 3.5S

わずか62台のみ生産された  
歴史的モデル



### 強固なM3用ボディにアルピナ製6気筒エンジンを搭載

卓越した動力性能と上質な乗り心地が両立した魅力的な高性能モデル。アルピナの特長を端的に説明すると、そういうことになるだろう。

スポーティかつ洗練された印象のインテリアもアルピナを語る際に忘れることができないポイントだが、全方位的に優れているアルピナの歴史を振り返ると、サーキットで活躍していた時期が意外にも長かったことに気付く。具体的に説明すると、アルピナは1968年から1978年までの10年間とBMW ALPINA M3グループAを擁して戦った1987年から1988年までの2年間に幾多のレースで輝かしい戦績を残しているのだ。

ブルカルト・ポーフェンジーベンによって1965年に設立されたアルピナは、実はそれ以前から精力的に活動していた。1961年に

前述のポーフェンジーベンがBMW 1500用ウェーバー・ツイン・キャブレターの開発に着手し、出来上がった製品をチューニング・キットとして熱心なBMWユーザーに販売したのである。アルピナのチューニング・キットは大ヒットし、1964年の時点でアルピナがチューニングしたBMWにもノーマルのBMWと同じ車両保証が与えられていたといわれている。

そのような順風満帆と表現してもいい状況を踏まえ、晴れてアルピナが設立されたわけだが、BMWがアルピナの活動を一切制限しなかったこともあり、ツーリング・カーレースに参戦した際のアルピナのエントリー・リストにはニキ・ラウダやジャッキー・イクスといった錚々たるドライバーが名を列ねていた。

その後、アルピナはBMWから3.0CSL(稀代のライト・ウェイト・クーペとして知られる名車)のプロジェクト・リーダーとして指名され、見事に戦闘力が高いマシンを完成させた。1973年にニュルンベルク6時間耐久レースにおいてツーリング・カーとして新記録を樹立し、それと同時にオイル・ショックを乗り切るにも成功したアルピナは、ツーリング・カー選手権のチャンピオンを獲得した1977年シーズンを最後にレースの世界から退いた。

この時から、アルピナは公道を走る高性能モデルの開発に専念することになったが、まず、1978年に3シリーズのボディに6気筒エンジンを搭載したALPINA B6 2.8、世界で最も速いリムジンだと各方面で称賛されたALPINA B7 Turbo、そして、最高出力300馬力を誇ったALPINA B7 Turbo Coupeという3モデルがリリースされた。そして、1983年にドイツ自動車登録局から自動車



アルピナの雄姿をモータースポーツ・シーンの中で堪能できなくなった今、“M”のボディを持つ抜群に戦闘力が高いモデルがリリースされる可能性は極めて少ない。かつて、ALPINA B6 3.5Sというクルマが少量生産されたという事実は、生粋のアルピナ・フリークをいつの時代にも熱くさせる。



ALPINA B6 3.5Sは1987年11月から1990年12月まで生産された。現車は1988年式。日本に上陸した正規輸入車は3台で、現存するのは2台のみとなっている(今回撮影した売却済車両を含む)。そういったこともあり、過去に現車を所有してきた各オーナーらがB6 3.5Sのポテンシャルを楽しみつつ、非常に丁寧に扱ってきた(走行距離が13万3600kmに達していたが、各部のコンディションがすこぶる良かった)。アルピナの深遠さを知ることができる好例だといえるだろう。撮影協力:アウグランツ <http://www.a-glanz.com/>

メーカーとして正式に登録されたアルピナは、今回撮影したALPINA B6 3.5Sを1987年にリリースしつつ、BMW ALPINA M3グループAを擁して再びサーキットを席巻した。しかし、新型車の開発、生産を重要視し、1988年にモータースポーツから完全に撤退した。

ちなみに、BMWとアルピナの蜜月の中で誕生したALPINA B6 3.5Sは、本来は門外不出であるはずのBMWモータースポーツ社製M3ボディが与えられた超貴重なモデルである。アルピナの歴史の中で“M”のボディを持つモデルはB6 3.5Sしか存在しておらず、その生産台数は62台という極めて少ないものだった。BMW本社、BMWモータースポーツ社、そして、アルピナという3社のクルマ造りにかける情熱と技術力の高さが半端なものではなかったことを、これから先もALPINA B6 3.5Sが全身全霊で教えてくれるに違いない。